

NISSIN 日清食品ホールディングス

NISSIN REPORT

第62期 株主通信

2009年4月1日から2010年3月31日まで

インスタント
ラーメンの父
安藤百福
生誕百年



MOMOFUKU 100th Anniversary

本年は、日清食品創業者 安藤百福 生誕100年にあたります。

日清食品グループは、No.1ブランドの集合体である 「ブランディングコーポレーション」の実現を目指します。

株主の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素は格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

ここに、第62期(2009年4月1日から2010年3月31日まで)株主通信をお届けするにあたり一言ご挨拶申し上げます。

■ 当期の事業概況

当期のわが国経済は、緩やかなデフレの中、雇用情勢にも引続き厳しさが残るものの、政府の経済対策や輸出の緩やかな回復等を背景に、企業収益や個人消費にも回復の兆しが見られるようになってきました。

その一方で、当社グループの中核である即席めん事業は、少子高齢化やデフレによる消費者の生活防衛意識の高まりなど、事業環境は一層厳しさを増しました。

このような状況の中、国内の即席めん事業を中心に、技術イノベーション力を発揮すべく設備投資を積極的に行い、めんの更なるおいしさを求めて、品質改良や新世代めんの開発を行うとともに、マーケティング力を活かした販売施策を展開し、ブランド価値の向上に努めました。

その結果、当社グループは即席めん事業において増収・増益となり、また、その他の事業においても、シリアル製品や乳酸菌飲料等で、堅調な売上となりました。

■ 今後3年の成長期に向けて

当社グループは、2008年に持株会社制に移行して以来、戦略的プラットフォームの整備を積極的に推進し、国内7事業会社、海外4地域を横断的に後方支援する体制を確立してまいりました。

また、今後3年間で当社グループの重要な成長期と捉え、更なる飛躍に向けて、2010年度(2011年3月期)からの3カ年を対象とする中期経営計画「UNITE FOOD POWERS 2012」を策定しました。

その基本方針としては、「技術イノベーション力」と「マーケティング力」の拡充、「海外力」の拡大、「CSR活動」の推進が挙げられます。

当社グループでは、今後とも、国内で培った技術イノベーション力、マーケティング力及び収益力といった当社グループの強みを結集し、海外展開を積極的に図ることで、No.1ブランドの集合体である「ブランディングコーポレーション」の実現を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2010年6月

日清食品ホールディングス株式会社
代表取締役社長・CEO

岩崎宏基



今や世界で年間約915億食も消費されているインスタントラーメン。

2010年は、その発明者で日清食品創業者でもある安藤百福の生誕100年にあたります。

「食を通じて世界に貢献したい」という創業者の思いは、今も脈々と受け継がれています。

— グループ理念 —

私たち日清食品グループは、さまざまな「食」の可能性を追求し、夢のあるおいしさを創造していきます。

さらに、人類を「食」の楽しみや喜びで満たすことを通じて、社会や地球に貢献します。

EARTH FOOD CREATOR



財務ハイライト(連結)

事業の経過及びその成果

国内では、当社グループの強みである技術イノベーション力を発揮すべく設備投資を積極的に行い、既存ブランドにおけるめん品質改良や新ブランド「日清 太麺堂々」を立ち上げるなど新世代めんの開発を行いました。また、もうひとつの強みであるマーケティング力を活かした販売施策を展開し、当社グループのブランド価値の向上に努めました。

一方、海外では、北米地域において、価格改定が浸透し、原材料価格が前期比で低下したこともあり、黒字に転換いたしました。また、中国・アジア地域では、中国市場の消費低迷の影響があったものの、

アジア市場における積極的な販売施策を実施したことにより、業績は堅調に推移しました。

以上の結果、当連結会計年度の業績は、売上高は前期比2.5%増の3,711億78百万円となりました。更に利益面においては、北米地域での収益の回復が業績に大きく貢献したこともあり、営業利益は前期比16.1%増の273億41百万円、経常利益は前期比14.1%増の327億94百万円、当期純利益は前期比29.0%増となり、過去最高の204億96百万円となりました。

今後の見通し

事業環境は、少子高齢化による国内市場の成熟化、金融危機以降の消費低迷、食品・流通業の大型再編、環境意識の高まり、新興諸国の影響力増大等、大きな変化の時期を迎え、この流れは、今後も継続すると予測されます。

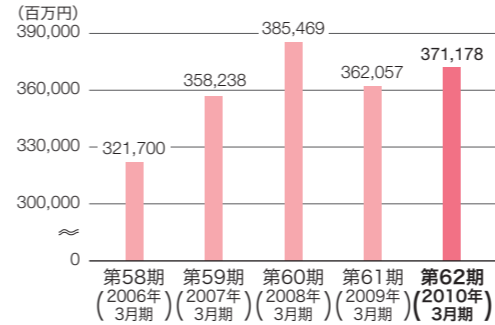
このような中、当社グループは、No.1ブランドの集合体である「ブランディングコーポレーション」の実現を目指し、国内で培った技術イノベーション力、

マーケティング力及び収益力を結集し、海外へも展開してまいります。

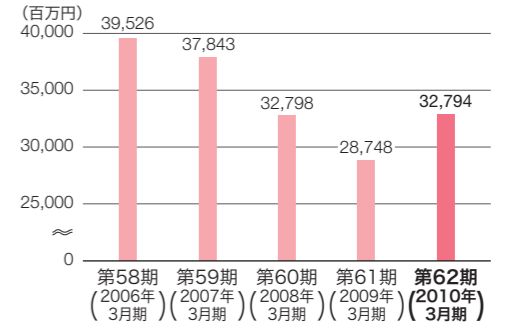
次期の業績については、売上高3,900億円(当期比5.1%増)、利益面では、中期経営計画を上方修正し、営業利益345億円(当期比26.2%増)、経常利益380億円(当期比15.9%増)、当期純利益220億円(当期比7.3%増)を見込んでいます。

	第58期 (2006年3月期)	第59期 (2007年3月期)	第60期 (2008年3月期)	第61期 (2009年3月期)	第62期 (2010年3月期)
売上高(百万円)	321,700	358,238	385,469	362,057	371,178
経常利益(百万円)	39,526	37,843	32,798	28,748	32,794
当期純利益(百万円)	15,388	18,968	13,591	15,890	20,496
1株当たり当期純利益(円)	125.09	156.12	111.17	129.98	177.02
総資産(百万円)	366,801	410,407	392,694	408,729	408,410
純資産(百万円)	263,199	288,476	288,844	285,569	271,951
自己資本当期純利益率(ROE)(%)	5.9	7.0	4.8	5.7	7.5

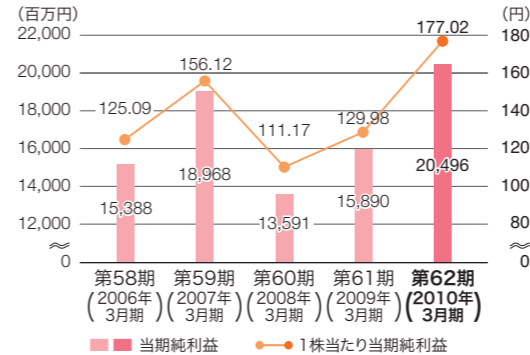
■ 売上高



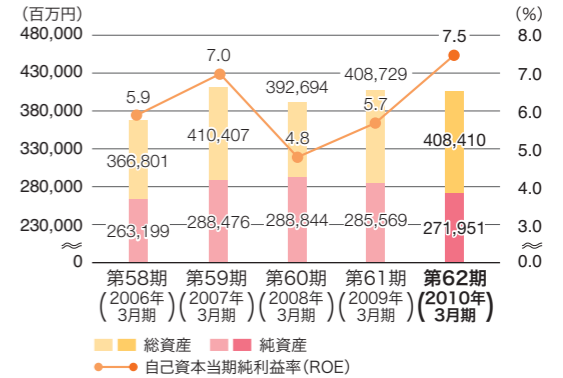
■ 経常利益



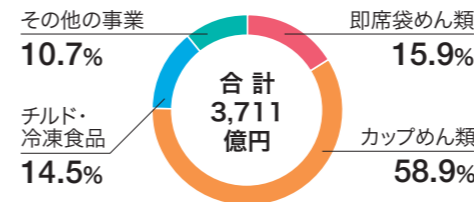
■ 当期純利益・1株当たり当期純利益



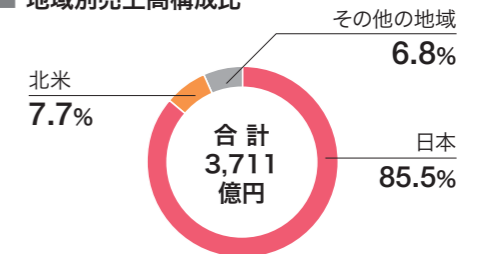
■ 総資産・純資産・自己資本当期純利益率(ROE)



■ 部門別売上高構成比



■ 地域別売上高構成比



ブランディングコーポレーション実現に向け、国内で培った「技術力、マーケティング力、収益力」の集結と海外展開



日清食品ホールディングス株式会社
代表取締役社長・CEO **安藤 宏基**

創業50周年を迎えた2008年に、当社グループは持株会社制へ移行し、第2創業期をスタートさせました。持株会社制移行後は、戦略的プラットフォームの整備を進め、国内7事業会社、海外4地域を横断的に後方支援する体制を構築することができました。

また、「10年に1度の技術革新」と自負する新技術の開発に成功し、成長の原動力を確立しました。

このような背景から、2010年からの3年間は当社グループの成長期と位置付け、今回、中期経営計画として「UNITE FOOD POWERS 2012」を発表しました。

Q 「UNITE FOOD POWERS 2012」には、どのような意味が込められているのでしょうか？

海外を含む各事業会社のパワーを結集し、力強い「ブランド」を数多く創造していきます。

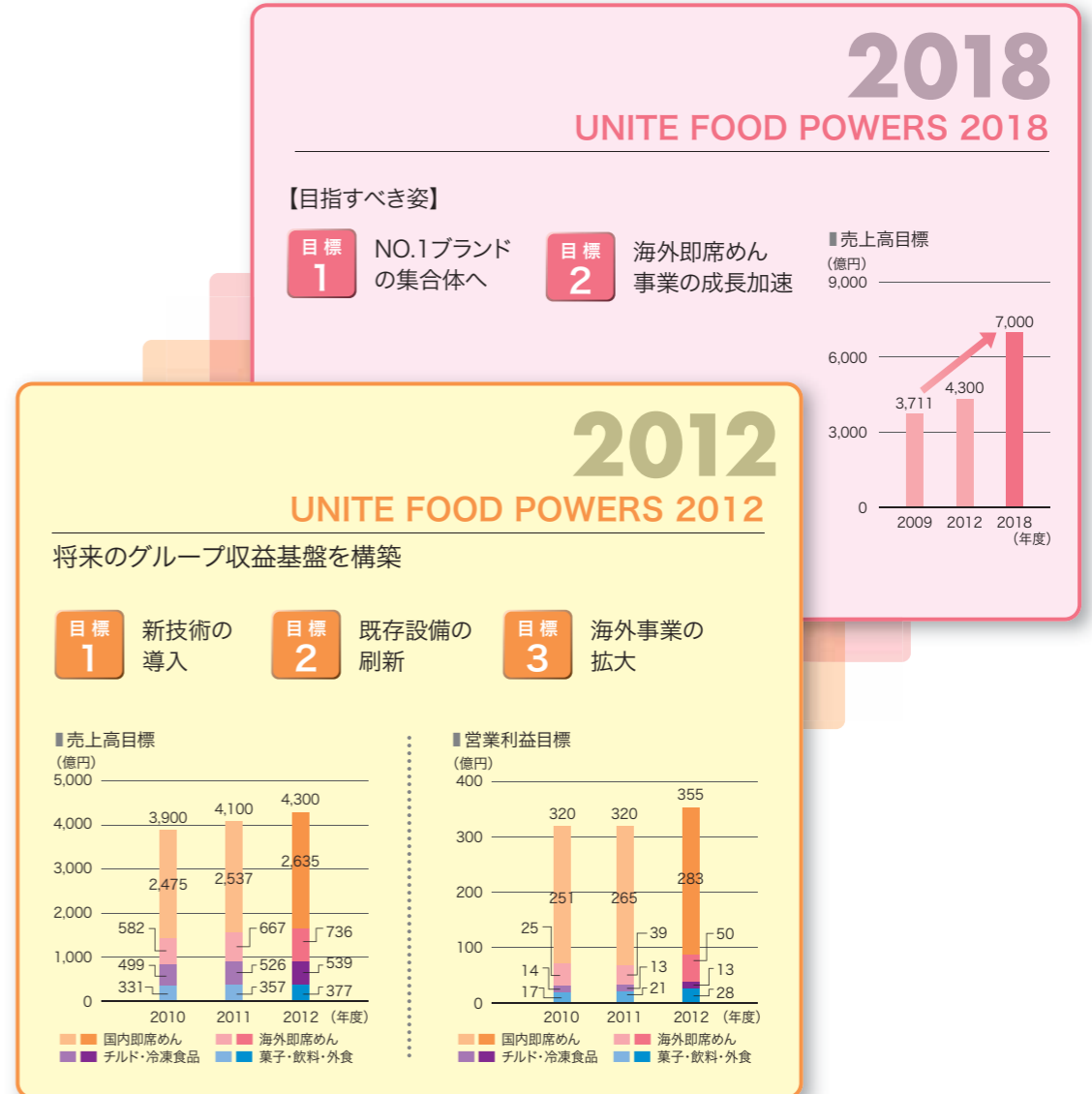
この中期経営計画のタイトルとしている「UNITE FOOD POWERS 2012」には、グローバルな戦略的プラットフォームを通じて、海外を含む各事業会社のパワーを結集（UNITE）し、力強い「ブランド」を数多く創造していこうという意味が込められています。

この中期経営計画で、将来のグループの収益基盤を構築し、2018年度にはNo.1ブランドの集合体である「ブランディングコーポレーション」を実現し、売上高7千億円の達成を目指します。

Q 日清食品グループの中期経営計画「UNITE FOOD POWERS 2012」策定の背景についてお聞かせください。

これからの3年間で当社グループの重要な成長期と位置付けました。

■ 長期ビジョンの概要



※ グループ連結会計と事業別の合計との差額は退職給付の影響額及び日清食品ホールディングスとその他子会社収益等です。

Q | 中期経営計画を達成するための方針について教えてください。

国内で培った「技術イノベーション力、マーケティング力、収益力」を結集するとともに、海外へ展開します。

中期経営計画では3つの基本方針を掲げています。

1. 「技術イノベーション力」と「マーケティング力」

「10年に1度の技術革新」により、既存ブランドにおけるめん品質改良や「日清 太麺堂々」等の新ブランドの立ち上げを実現しました。今年度も新技術によるめんの更なるおいしさを追求した新製品を投入する予定です。このような当社の強みである「技術イノベーション力」と、独自の商品開発力と

プロモーション力に基づく「マーケティング力」で、ブランド戦略を推進していきます。

2. 「海外力」の拡大

海外事業を拡大・進展させることは、この3年間の成長のカギとなります。グループの経営資源を海外へと展開することで事業構造を強化していきます。特に成長市場への革新的技術と資金の投入と販売体制の強化に取組み、地域No.1ブランド戦略を推進します。

3. 「CSR」活動の推進

当社グループでは、「食の安全・安心」を最重要課題の1つに掲げています。食品安全研究所を中心とした独自の品質保証体制を確立するとともに、

「カスタマー・コミュニケーション・センター」(CCC)を設置し、お客様の声を迅速に活かす仕組みづくりを進めており、「安全・安心」体制の更なる強化を図ります。

また、2008年に立ち上げた、50年間で100の社会貢献活動を行う「百福士プロジェクト」は、「創造」「食」「地球」「健康」「子供たち」という5つのテーマでさまざまな活動を展開し、社会との共生を図っていきたくと考えています。

中期経営計画では、長期ビジョンも示しており、2018年の目指すべき姿として、No.1ブランドの集合体である「ブランディングコーポレーション」の実現を掲げています。この長期ビジョン達成のために、これからの3年間で将来のグループ収益基盤を構築します。



当期の中間配当(2009年11月実施)では、1株当たり25円の配当とさせていただきますので、これと併せて2009年度の年間配当は1株当たり60円となります。

今後の株主配当につきましては、2011年3月期は年間配当10円増配(年間60円→70円)を計画しています。更に2013年3月期までの連結配当性向の数値目標を40%と定め、その達成に向けて、グループ一丸となって取り組んでまいります。

また2009年度は、1,000万株の自己株式を消却^{*}し、2010年3月末時点の発行済株式総数は、11,746万株となりました。

今後とも、連結業績や資金需要を勘案しながら、継続的かつ安定的な利益還元を行うと同時に、効率的な資金運用により企業価値の向上を図ってまいります。

^{*}自己株式の消却:発行体企業が、自己株式を譲渡できないように消滅させること。

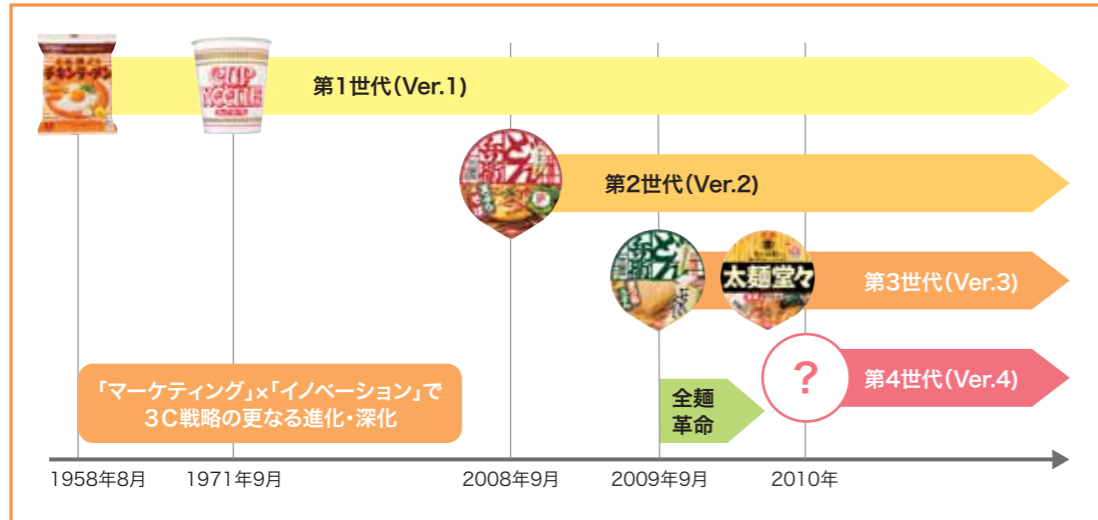
Q | 株主還元の考え方についてお聞かせ下さい。

企業価値の向上と株主の皆様に対する適切な利益還元を最重要経営課題と捉え、安定配当の継続に努めます。

当社グループでは、株主の皆様に対する適切な利益還元を、経営上の最重要課題と捉え、グループ収益力の強化に努めています。

今期の期末配当につきましては、1株当たり35円とします。これは、普通配当25円(1株当たり)に、2010年3月5日に創業者である 故 安藤百福が生誕100年を迎えたことを記念して「生誕100周年記念配当」として10円(1株当たり)を加えたものです。

■ 技術革新によるインスタントラーメンの新世代めん登場





1

日清食品 創業者安藤百福生誕百年

世界初のインスタントラーメン「チキンラーメン」を発明し、食文化に革命を起こした日清食品創業者安藤百福が生まれてから、今年で100年を迎えました。

そこで、お客様への感謝を込めて、3月1日に「チキンラーメン」を35円(税込)、「カップヌードル」を100円(税込)と、それぞれ発売当初の価格で販売しました。また、創業者の長寿(享年96歳)にあやかり、1本約100cm(切り出し時)のめんが特徴のカップめん「百福長寿麺 鶏だし塩ラーメン」「百福長寿麺 鴨だしそば」を販売しました。いずれも、発売直後にすべて完売しました。

更に3月27日～4月4日には「インスタントラーメン発明物語～安藤百福 生誕百年記念展～」をららぽーと豊洲(東京)で開催し、「世のため、人のために食を創る」ことに人生を捧げた「独創と不屈の精神」を紹介しました。

2

明星食品 創業60周年を機に 新スローガンを策定

明星食品は、今年で創業60周年を迎え、3月には祝賀イベントとして「新たな飛躍を誓う集い」を盛大に催しました。

また、新スローガンとして「おいしさ、キラリ☆」を掲げ、全社員が新たな発展を目指すことを誓いました。このスローガンには、お客様に、食を通じて、安心、驚き、嬉しさを持っていただける



新スローガン

ように、製品の品質を究めること、そして、お客様の心とおなかに「キラリ☆」と輝く一番星になれるように、という思いが込められています。

3

日清ヨーク 西日本初の生産拠点「関西工場」建設へ

日清ヨークは、兵庫県西脇市に「関西工場」を建設します。3月上旬に着工し、10月の竣工を予定しています。

新工場は、主力製品である乳製品乳酸菌飲料「ピルクル」と、その姉妹品「ピルクルスリム」の西日本初の生産拠点となり、1日6万リットル



の生産能力を備えることとなります。現在、西日本地区では、コンビニエンスストア限定(沖縄県は除く)でピルクルを販売していますが、今後は量販店等へと販売チャネルを拡大し、ピルクルブランドの全国化を目指します。

4

日清食品ホールディングス 日清食品グループ陸上競技部 念願の初優勝

当社グループでは、創業者の「食とスポーツは健康を支える両輪である」という理念のもと、様々なスポーツ活動への支援を行っています。

その一環として運営している陸上競技部が、今年1月1日、群馬県で開催された「ニューイヤー駅伝2010 第54回全日本実業団対抗駅伝競走大会」で、念願の初優勝を果たしました。



5

ニッシンフーズ(U.S.A.)Co.,Inc.(米国日清) 発売7年で新カテゴリーを創出

米国日清では、2003年から電子レンジ調理即席めん「CHOW MEIN」を発売してきました。おかげさまで、「CHOW MEIN」の成長に伴って、発売7年を経た今、この「電子レンジ調理トレータイプ」は、米国即席めん市場における不可欠かつ大きなカテゴリーの一つへと成長しました。



今年は「CHOW MEIN」のテレビコマーシャルも放映し、そのキャラクターである「Noodle Master Eddie(エディ)」が人気を博しました。また、放映地区を中心に店頭試食デモ販売を実施した結果、好調な販売となりました。



6

ニッシンフーズ(アジア)PTE.LTD.(日清シンガポール)

初のシンガポール製 「日清ブランド製品」好調なスタート

2009年4月にスタートした日清シンガポールは、日清ブランドと明星ブランドを合わせ、現在シンガポール国内シェアの約半数を獲得しています。同年12月には日清ブランドとしては初のシンガポール製品である「红烧牛肉面」(袋めん、カップめん)と「XO 醬海鮮面」(袋めん)を発売し、順調に売上を伸ばしています。

「红烧牛肉面」は牛肉と野菜をじっくり煮込み、極上の中華スパイスでおいしさを引立たせた逸品で、同フレーバーとしては、初のハラール食品(イスラム教徒も食べられる食品)としても注目を集めています。

7

日清食品有限公司(香港日清)

「合味道(CUP NOODLES)トラム」が イノベティブ・インターナショナル賞の「月間賞」を受賞

香港日清製品「合味道」は、2009年9月に、従来のお湯かけ調理に加え、電子レンジ調理も可能な発泡紙カップ(ECOカップ)に全面リニューアルを行い、更に付加価値を高めたことで、売上は好調に推移しました。また、日本や香港を含む12カ国から募った広告作品の中から選ぶJCドゥコー社主催のイノベティブ・インターナショナル賞において、同製品をかたどり大型カップから湯気を出しながら香港の

街を走る2階建て路面電車「合味道トラム」が、最も高く評価され「月間賞」を受賞しました。



製品のご案内

日清食品

日清 太麺堂々 醤油豚骨
日清 太麺堂々 香熟味噌

発売地区：全国

「2010沸騰太めん宣言」※の第一弾として、日清食品最太のめんを実現したカップめんの新ブランド「太麺堂々」から、ファミリー層をターゲットとした「醤油豚骨」「香熟味噌」が登場しました。商品コンセプトは「太いはい。麺の旨さはここまで来た。」。

新技術「太ストレート製法」(特許取得済み)を使用し、食べ応えと食感にこだわった太フライめんと、それに負けないエキスリッチなスープが特徴です。「醤油豚骨」はポークエキスの旨みが利いた醤油豚骨スープ、「香熟味噌」は野菜の炒め感がある味噌スープで、それぞれ太めんのおいしさを最大限に味わえる商品です。

※2010年に日清食品が展開しているブランド横断プロジェクト。めんの新技術「太ストレート製法」を使用した太めん商品群による“新しいまざ”の提案で、太めんムーブメントを更に活性化します。



日清 太麺堂々
醤油豚骨

日清 太麺堂々
香熟味噌

明星食品

明星 究麺 つけめん
魚介豚骨醤油だれ

発売地区：全国

明星食品による、めんの食感、旨さを追求した「究麺」ブランドならではのニューメニュー提案です。温かいめんを温かいたれにつけて食べる“あつもり”と呼ばれるタイプのつけめん、めんはもちもちとした食感と食べ応えのあるつけめん専用の太めんを開発しました。つけだれは、豚骨をベースに魚介だしを合わせた魚介豚骨醤油だれです。酸味、甘み、辛味がバランスよくきいた濃厚なつけだれにめんがよく絡み、本格的なつけめんが楽しめます。



製品のご案内

日清食品チルド

つけ麺の達人 和風鶏塩だれ

発売地区：東北・関東・中部・近畿・中国・四国・九州

人気の「つけ麺の達人」シリーズに、「和風鶏塩だれ」が新登場。もちもちの極太めに濃厚な鶏ガラスープと魚介のエキスを加えた塩味だれを合わせました。別添の魚粉を加えると、鰹の香りが広がり、コクがアップします。こだわりのめんとたれで、つけめんブームを牽引します。



野菜を加えてラーメンサラダ ごま風味ドレッシング

発売地区：東北・関東・中部・近畿・中国・四国・九州

1934年創業の有名老舗ホテル「札幌グランドホテル」にご協力いただき、北海道のご当地メニューを共同開発し、商品化しました。しっかりしたコシのある手もみ風のめんを、ごま油の風味が利いた濃厚なドレッシングに絡めて、たっぷりの野菜と一緒に楽しめます。かくし味には、マスタードを利かせました。



日清シスコ

シスコーンBIG ホットケーキ味

発売地区：全国

シスコーンBIGシリーズに「ホットケーキ味」が新登場。子どもたちが大好きなホットケーキの風味をコーンフレークで表現しました。はちみつとメープルシロップを使用し、牛乳との相性も抜群で、朝食シーンにぴったりのコーンフレークです。1食分(40g)に牛乳200mlをかけて食べると、1日に必要とされている9種類のビタミン、カルシウム、鉄の1/3以上を摂取できます。



GooTaフルーツたっぷり グラノーラ

発売地区：全国

「GooTaフルーツたっぷりグラノーラ」がいちご増量(従来品比)でリニューアル。たっぷり5種のフルーツ(いちご、りんご、パパイア、レーズン、マンゴー)とサクサクの穀物パフで食べ飽きないおいしさに仕上げました。1食分(50g)に牛乳200mlをかけて食べると、9種類のビタミン、鉄、カルシウムの1日必要量の1/3以上を摂取できます。保存に便利なチャック付きです。



日清食品冷凍

スパ王プレミアム まいたけの入ったあさりと海老

発売地区：全国

大人気の冷凍パスタから「日清スパ王プレミアム」シリーズが新登場。幅広い年代の方にお選びいただけるように、「ミートソース」などの洋風メニューから、「あさりと海老」といった和風メニューまで、合計8種類を発売しました。レンジひとつで簡単に調理ができるため、ご家庭で手軽に本格パスタをお召し上がりいただけます。



横手風焼そば

発売地区：全国

「横手やきそば暖簾会」監修のもと、日清食品冷凍が、人気のご当地焼そばをご家庭で手軽に調理できるようにアレンジしました。「横手やきそば」らしい、太くてストレート感のある茹でめんを再現し、かつお、昆布のだしが利いたまるやかな味のソースを組み合わせました。また、「横手やきそば」の特徴である半熟の目玉焼きに、キャベツと豚ひき肉、福神漬もプラス。食べ応え満点です。



味の民芸フードサービス

ごろごろ野菜の カレーうどん

「味の民芸」から、大きめの角野菜をコトコト煮込んだ、新感覚のカレーうどんが登場しました。奇をてらわず、「てまひま」が生み出す手作り感たっぷりの「うまい!」カレーうどんです。前日に仕込みを行い、数量限定で販売しています。「さすが味の民芸だね」とお客様を納得させられる商品に仕上げました。



デミたまチーズうどん

女性に人気の「とまと」の味わいと「とろっとたまご」を使用した、ほかでは味わえない、デミグラスソース仕立ての洋風アレンジのうどんです。チーズのとろみも加わって、濃厚な味わいが食欲をそそります。まるで、洋食屋を思わせるような、本格的な味わいです。



5つのテーマで、50年間に100の社会貢献活動を行う「百福士プロジェクト」を進めています。

日清食品グループでは、創業50周年を迎えた2008年から「百福士プロジェクト」を実施しています。これは、今後50年間に合計100の社会貢献活動を行い、企業の社会的責任を果たすことを目的としたプロジェクトです。

日清食品グループでは、創業者精神や安藤スポーツ・食文化振興財団の理念、更に社会的関心の高い課題や当社グループの事業領域などを考慮して、「創造」「食」「地球」「健康」「子供たち」の5つのテーマで社会貢献を進めています。



未来の「**創造**」のために。
世界に、これまでなかった驚きを！
産業、文化、芸術、科学などみんなの「創造」をどしどし応援！

1

第1弾 アフリカ事業化自立支援

ケニア“Oishii”プロジェクト

貧しく食糧難に苦しむアフリカ・ケニアの人々に、インスタントラーメンの作り方を教え、経済的自立を支援します。



未来の「**子供たち**」のために。
ココロもカラダも沸く湧く！
「子供たち」の心身豊かな成長を、サポート！

未来の「**地球**」のために。

地球と生きよう！
環境や生態系を守って、「地球」に生きるすべての生命を支援！

3

2

未来の「**食**」のために。

68億を、腹から笑顔に！
安全性の追求、食文化の発展、餓飢問題への取り組み、災害への備えまで、世界中に「食」を通して幸せを！

4

未来の「**健康**」のために。

人類を、お腹の底から健やかに！
新しい食スタイルの提案から賢い食生活の提示までみんなの「健康」な暮らしを応援！

第2弾 自然体験活動指導者養成事業

“あやしいオヤジを、正しいオヤジに変える！”プロジェクト

自然体験活動の指導者資格を取り、ボランティアとして活動することで、子供達に自然との共生を教えます。



第3弾 防災備蓄食支援

“もしもの時のチキンラーメン・カン”プロジェクト

防災・備蓄用長期保存缶を新たに開発し、大阪の3自治体に合計10万食を寄贈しました。



第4弾 インスタントラーメンのお湯でもSTOP温暖化

「お湯と生きる」プロジェクト

「お湯」と生きている企業の責任として、「お湯」を沸かす際に排出されるCO₂を、ちょっとした工夫で約60%も削減できることを、ウェブサイトなどを通じて呼びかけるプロジェクトです。



第5弾 社員大ボランティア支援プログラム

「社員の大ボラ応援します！」プロジェクト

従来の会社主体の活動と異なり、社員自らの社会貢献活動を支援するプログラムです。企業が関与しづらい地域社会のさまざまなニーズに社員自らがボランティアとして取り組むことを会社が支援することで、地域社会に貢献する人材を育成します。



有言実行

部門別業績の概況

即席袋めん類

「チキンラーメン」については、創業者安藤百福の生誕百年を記念して、1,000万食を発売当時の価格(35円)で販売したこともあり、堅調な売上となりました。

また「日清のラーメン屋さん」シリーズの売上は前年比減、「日清焼そば」の売上は前年比増となりました。「明星 チャルメラ」シリーズの売上は前年を下回り、オープン価格の「評判屋」シリーズは前年並みに推移しました。海外においては、アジア地域は、積極的な販売施策により売上増、北米地域においても、価格改定の効果など



「チキンラーメン」



「明星 評判屋の中華そば」

で売上増となりました。

この結果、即席袋めん類の売上高は前期比0.7%増の588億59百万円となりました。

カップめん類

今期の国内におけるカップめん類の販売状況については、ブランド価値や質を求める層、価格を最重要視する層及び楽しさや新規性を求める層といった消費の三極化に対応した製品戦略を展開し、幅広い消費者に受入れられた結果、堅調な業績となりました。

特に、今期からスタートしたプロジェクト「うまい!をきわめる。全麺革命」では、当社グループの強みである「技術イノベーション力」と「マーケティング力」を活かした製品改良や新製品投入に取り組まれました。

まず「日清麺職人」シリーズでは、生めんのようなコシ、どごしを実現する改良を行い、「日清のどん兵衛」シリーズ



「日清麺職人」



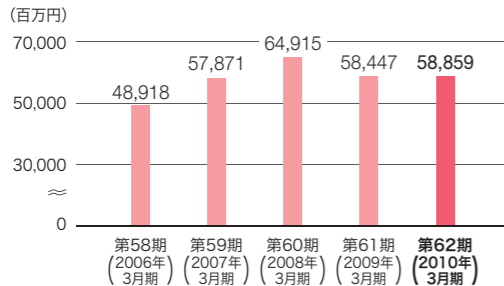
「日清のどん兵衛」



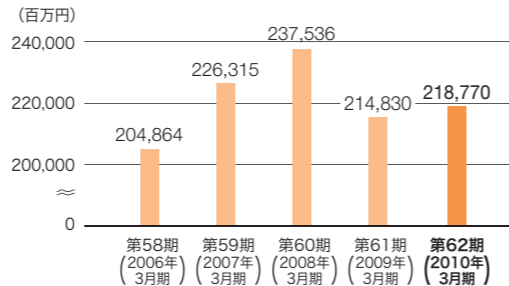
「明星 一平ちゃん夜店の焼そば」

では新製法「太ストレート製法」による「日清のどん兵衛」史上で最高に太い「ぶつうどん」に改良しました。そして、「全麺革命」実施以来初めてとなる新ブランドとして「太ストレート製法」を進化させ最太のめんを実現した「日清 太麺堂々」シリーズを投入し、より本物を求める

■ 即席袋めん類の売上高推移



■ カップめん類の売上高推移



消費者に好評となりました。

また、「明星 チャルメラ」、「明星 一平ちゃん夜店の焼そば」シリーズにおいて、積極的な広告宣伝を実施したことにより、両シリーズとも売上を伸ばしました。また、「スーパーノンフライ製法」を更に進化させ、食感をアップさせた「明星 究麺」「明星 ノンフライワンタン」も

好調な売行きを示しました。

更に海外でも、北米地域において、既存ブランドを中心に大幅に売上を伸ばすことができました。

以上の結果により、カップめん類の売上高は、前期比1.8%増の2,187億70百万円となりました。

チルド・冷凍食品

日清食品チルド(株)では、チルドめんの総需要が伸びていないこともあり、減収となったものの、チルドめんのおいしさを活かした「つけ麺の達人」シリーズは好調に推移しました。また、日清食品冷凍(株)では、「冷凍日清スバ王」シリーズなどが売上を伸ばした他、(株)ニッキーフーズが前期の第3四半期から連結対象となったため、増収となりました。

この結果、チルド・冷凍食品全体の売上高は、前期比8.5%増の537億66百万円となりました。



「つけ麺の達人」



「スバ王 プレミアム」

その他の事業

シリアル製品「シスコーンBIG」や乳製品乳酸菌飲料「ビルクルLife+」などが大きく売上を伸ばす一方、外食事業では、内食化や節約志向による影響から減収となりました。この結果、その他の事業の売上高は前期比1.4%増の397億81百万円となりました。



「ビルクルLife+」

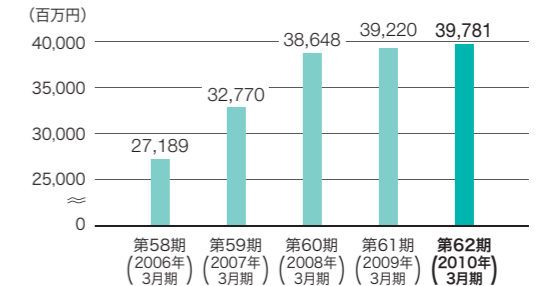


「シスコーンBIG」



「外食事業(味の民芸)」

■ その他の事業の売上高推移



連結決算の状況

連結貸借対照表

(単位:百万円)

	第61期	第62期
	(2009年3月31日現在)	(2010年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	158,270	155,810
固定資産	250,458	252,600
有形固定資産	101,131	109,278
無形固定資産	4,779	4,850
投資その他の資産	144,547	138,471
資産合計	408,729	408,410
負債の部		
流動負債	88,733	88,088
固定負債	34,425	48,371
負債合計	123,159	136,459
純資産の部		
株主資本	295,575	276,948
資本金	25,122	25,122
資本剰余金	49,755	48,416
利益剰余金	235,052	223,857
自己株式	△ 14,355	△ 20,448
評価・換算差額等	△ 15,946	△ 10,695
その他有価証券評価差額金	△ 477	3,587
土地再評価差額金	△ 7,532	△ 7,682
為替換算調整勘定	△ 7,935	△ 6,600
新株予約権	—	204
少数株主持分	5,940	5,494
純資産合計	285,569	271,951
負債純資産合計	408,729	408,410

(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

連結損益計算書

(単位:百万円)

	第61期	第62期
	(2009年4月1日から 2009年3月31日まで)	(2009年4月1日から 2010年3月31日まで)
売上高	362,057	371,178
売上原価	202,304	203,037
売上総利益	159,752	168,141
販売費及び一般管理費	136,200	140,799
営業利益	23,552	27,341
営業外収益	8,181	6,205
営業外費用	2,984	751
経常利益	28,748	32,794
特別利益	499	136
特別損失	5,876	1,776
税金等調整前当期純利益	23,372	31,154
法人税、住民税及び事業税	9,223	13,254
法人税等調整額	△ 1,837	△ 2,983
少数株主損益	96	388
当期純利益	15,890	20,496

(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	第61期	第62期
	(2009年4月1日から 2009年3月31日まで)	(2009年4月1日から 2010年3月31日まで)
営業活動による キャッシュ・フロー	30,010	40,777
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 31,829	△ 2,339
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 1,865	△ 38,109
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△ 3,597	237
現金及び現金同等物の 増減額	△ 7,282	565
現金及び現金同等物の 期首残高	78,774	71,491
新規連結に伴う現金及び 現金同等物の増加額	—	631
現金及び現金同等物の 期末残高	71,491	72,688

(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

■ キャッシュ・フローの状況

連結会計年度末における現金及び現金同等物(以下、資金といいます。)の残高は726億88百万円となり、前連結会計年度末と比べ11億96百万円の増加となりました。この要因は次のとおりです。

● 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動による資金の増加は40億777百万円となりました。これは主に税金等調整前当期純利益311億54百万円や減価償却費95億77百万円等によるものです。また、前連結会計年度と比べて107億66百万円の増加となりました。この主な増加要因は、税金等調整前当期純利益(前期比77億82百万円の増加)、売上債権の増減額(前期比40億44百万円の増加)です。

● 投資活動によるキャッシュ・フロー

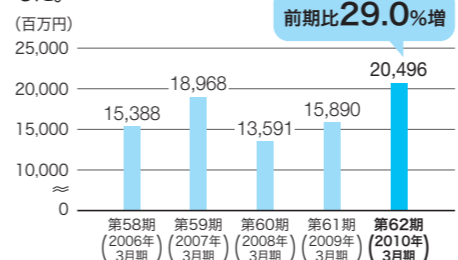
投資活動による資金の減少は23億39百万円となりました。これは主に固定資産の取得による支出152億75百万円、投資有価証券等の取得による支出138億70百万円、投資有価証券等の売却による収入235億51百万円によるものです。また、前連結会計年度と比べて294億90百万円の増加となりました。この主な増加要因は、投資有価証券等の取得による支出が前期比で465億7百万円減少したこと及び投資有価証券等の売却による収入が前年比で122億87百万円減少したことによるものです。

● 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動による資金の減少は381億9百万円となりました。これは主に自己株式の取得による支出340億47百万円です。また、前連結会計年度と比べて362億43百万円の減少となりました。この主な減少要因は自己株式の取得による支出が340億36百万円増加したことによるものです。

■ 当期純利益は過去最高益

当連結会計年度の当期純利益は前期比29.0%増となり、過去最高の204億96百万円となりました。



連結株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

	株主資本				株主資本 合計	評価・換算差額等				新株 予約権	少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計			
2009年3月31日残高	25,122	49,755	235,052	△14,355	295,575	△477	△7,532	△7,935	△15,946	—	5,940	285,569
連結会計年度中の変動額												
剰余金の配当			△5,947		△5,947							△5,947
当期純利益			20,496		20,496							20,496
自己株式の取得				△34,048	△34,048							△34,048
自己株式の処分				16	15							15
自己株式の消却			△1,338	△26,600	27,939							—
土地再評価差額金の取崩				149	149							149
連結子会社増加に伴う増加高			703		703							703
連結子会社増加に伴う減少高			△2		△2							△2
その他利益剰余金増加高			6		6							6
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)					—	4,065	△149	1,335	5,250	204	△446	5,008
連結会計年度中の変動額合計	—	△1,339	△11,194	△6,092	△18,626	4,065	△149	1,335	5,250	204	△446	△13,618
2010年3月31日残高	25,122	48,416	223,857	△20,448	276,948	3,587	△7,682	△6,600	△10,695	204	5,494	271,951

(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

第6回「株主懇親会」を開催

株主の皆様から直接、当社グループの経営や製品・サービス等に関するご意見やご質問をお聞かせいただき、また当社グループについて、株主の皆様により一層ご理解を深めていただく機会として、本年2月22日、「ホテルニューオータニ東京」にて、第6回「株主懇親会」を開催いたしました。当日は、1,890名の株主様にご出席を賜り、当社から代表取締役社長・CEOの安藤宏基をはじめ、役員、執行役員及び主要グループ会社の役員が出席し、株主の皆様と直接お話をさせていただくことで、貴重なご意見を多数頂戴することができました。

会場では、グループ会社の新製品等をご試食いただき、また今年の元旦に行われた「ニューイヤー駅伝2010」の当社陸上競技部の優勝報告会ならびに当社グループ会社のキャラクターグッズや製品等が当たる抽選会を実施いたしました。

これからも「株主懇親会」を継続して開催し、株主の皆様により一層当社及びグループ会社に対するご理解を深めていただけるように努めたいと存じます。



「個人投資家向け会社説明会」を開催

2009年8月・9月に計5会場、2010年3月に計5会場、大和証券(株)・野村證券(株)の10カ所の本支店にて「個人投資家向け会社説明会」を実施いたしました。当社代表取締役をはじめ、取締役、執行役員が、当社の企業概要、業績、中期経営計画や、当社グループの主要な取組み等について説明を行い、多くの個人投資家の皆様にご出席いただきました。

説明会では、個人投資家の皆様から、当社グループの海外市場等に関するご質問を数多くいただきました。

株主様ご優待

■ 割当基準日及び贈呈時期

- (1) 3月31日現在の株主様: 6月送付
- (2) 9月30日現在の株主様: 12月送付

※贈呈の時期は、多少前後することがございますので、あらかじめご了承くださいませようお願い申し上げます。

100株以上1,000株未満
ご所有の株主様

1,500円相当の当社グループ会社の製品詰合せを贈呈



1,000株以上
ご所有の株主様

3,500円相当の当社グループ会社の製品詰合せを贈呈



※ 製品詰合せは2009年度見本(12月送付分)です。

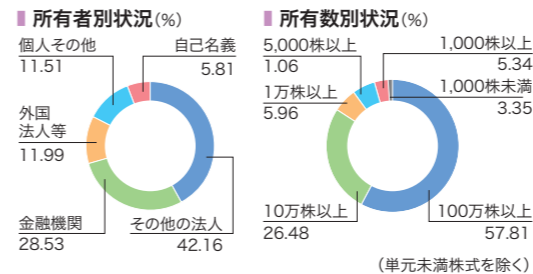
(2010年3月31日現在)

会社概要

商号	日清食品ホールディングス株式会社 (NISSIN FOODS HOLDINGS CO., LTD.)
設立	1948年9月
資本金	25,122,718,774円
従業員数	381名
東京本社の所在地	東京都新宿区新宿六丁目28番1号
大阪本社の所在地	大阪市淀川区西中島四丁目1番1号
事業内容	グループ事業会社(国内・海外)への経営サポート等

株式の状況

発行可能株式総数	500,000,000 株
発行済株式総数	117,463,685 株
株主数	33,956 名
1単元の株式数	100 株
単元株主数	31,777 名



■ 大株主の状況(上位10名)

株主名	持株数(百株)	持株比率(%)
財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団	79,043	7.14
三菱商事株式会社	78,000	7.05
伊藤忠商事株式会社	78,000	7.05
株式会社安藤インターナショナル	41,000	3.71
株式会社みずほコーポレート銀行	40,000	3.61
株式会社三菱東京UFJ銀行	36,504	3.30
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	35,716	3.23
小野薬品工業株式会社	24,604	2.22
江崎グリコ株式会社	23,610	2.13
ハウス食品株式会社	21,630	1.95

(注1) 当社は、自己株式68,136百株(発行済株式総数比5.80%)を保有しておりますが、上記の大株主の状況から除いております。
(注2) 持株比率の算定にあたっては、自己株式数を除いて算出しております。

役員及び執行役員

代表取締役 取締役社長・CEO	安藤 宏基
代表取締役 専務取締役・COO	中川 晋
日清食品(株)代表取締役社長	
常務取締役	
日清食品チルド(株)代表取締役社長	松尾 昭英
兼 日清食品冷凍(株)代表取締役社長	
常務取締役・CSO	成戸 隆之
取締役	
アジア総代表 兼 日清シンガポール社長	松村 泰治
取締役	
米州総代表 兼 米国日清社長	笹原 研
取締役・CMO	安藤 徳隆
取締役	
欧州総代表 兼 ドイツ日清社長	鉄林 修
取締役・CPO	横越 隆史
取締役・CQO	山田 敏広
兼 食品安全研究所長	
取締役・CDO	田中 充
兼 食品総合研究所長	
取締役(社外取締役)	小島 順彦
取締役(社外取締役)	小林 栄三
常勤監査役	牧園 俊作
常勤監査役(社外監査役)	金森 一雄
監査役(社外監査役)	堀之内 徹
監査役(社外監査役)	高野 裕士
執行役員	
中国総代表 兼 香港日清社長	安藤 清隆
執行役員・生産本部 副本部長	岩井 章
執行役員・総務部長	右近 龍也
執行役員・事業戦略本部 副本部長	楠本 一人
執行役員・技術統括部長	坂井 孝司
執行役員・宣伝統括部長	佐々木 智
執行役員・CAO 兼 広報部長	服部 秀樹
執行役員・CFO	横山 之雄

CEO Chief Executive Officer の略記(最高経営責任者)
COO Chief Operating Officer の略記(最高執行責任者)
CSO Chief Strategy Officer の略記(グループ事業戦略責任者)
CMO Chief Marketing Officer の略記(グループマーケティング責任者)
CPO Chief Production Officer の略記(グループ生産責任者)
CQO Chief Quality Officer の略記(グループ安全研究責任者)
CDO Chief Development Officer の略記(グループ食品総合研究責任者)
CAO Chief Administrative Officer の略記(グループ管理責任者)
CFO Chief Financial Officer の略記(グループ財務責任者)

株主メモ

事業年度：毎年4月1日から翌年3月31日までの1年間

配当金受領株主確定日：期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日

単元株式数：100株

定時株主総会：6月中に開催

基準日：3月31日
その他必要あるときは、あらかじめ公告して
定めます。

公告の方法：電子公告の方法により行います。ただし、電
子公告によることができない事故その他の
やむを得ない事由が生じたときは、日本経
済新聞に掲載する方法により行います。
(公告掲載URL)
<http://www.nissinfoods-holdings.co.jp/koukoku/>

株主名簿管理人

特別口座の：みずほ信託銀行株式会社
口座管理機関

同事務取扱場所：大阪市北区曽根崎二丁目11番16号
みずほ信託銀行株式会社
大阪支店証券代行部

郵便物送付先：〒168-8507
及びお問合せ先 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
TEL 0120-288-324(フリーダイヤル)

上場金融商品取引所：東京証券取引所市場第一部
大阪証券取引所市場第一部

ご案内

(1) 支払通知書発行のご案内

『租税特別措置法』の改正により、2009年1月以降に
支払われる配当金については、株主様に支払金額や源泉
徴収税額等を記載した「支払通知書」を通知することと
なっております。

つきましては、「支払通知書」の法定要件を満たした
「配当金計算書」を同封しておりますので、2011年の確定
申告の添付書類としてご使用下さい。

なお、配当金を株式数比例配分方式によりお受取りの
場合、2010年1月のお支払分より源泉徴収税額の計算は、
証券会社等にて行われますので、2011年の確定申告の
添付書類としてご使用いただける「支払通知書」につつま
しては、お取引の証券会社等へご確認下さい。

(2) 株主様専用電子メールアドレスのご案内


当社は、株主様からのご意見をお電話、お手紙の他に

電子メールを利用してお寄せいただくための専用電子
メールアドレスを設けております。

当社について日頃お気付きの事柄がございましたら、
次のメールアドレスまでご意見をお寄せ下さい。

なお、お電話、お手紙でもお待ち申しあげております。

- ① 株主様専用電子メールアドレス
E-mail soumu@nissinfoods-holdings.co.jp
- ② ご連絡先
〒160-8524
東京都新宿区新宿六丁目28番1号
日清食品ホールディングス株式会社
総務部 株主様係
TEL (03)3205-5111(代表)
FAX (03)3205-5059
E-mail soumu@nissinfoods-holdings.co.jp

 日清食品ホールディングス株式会社

東京本社 〒160-8524 東京都新宿区新宿六丁目28番1号
TEL (03)3205-5111(代表)

大阪本社 〒532-8524 大阪市淀川区西中島四丁目1番1号
TEL (06)6305-7711(代表)

ホームページ <http://www.nissinfoods-holdings.co.jp/>

 PRINTED WITH
SOYINK
大豆インキを使用しています。